

## 6 同和問題の解決への意見

### ア 今後の啓発活動についての意見

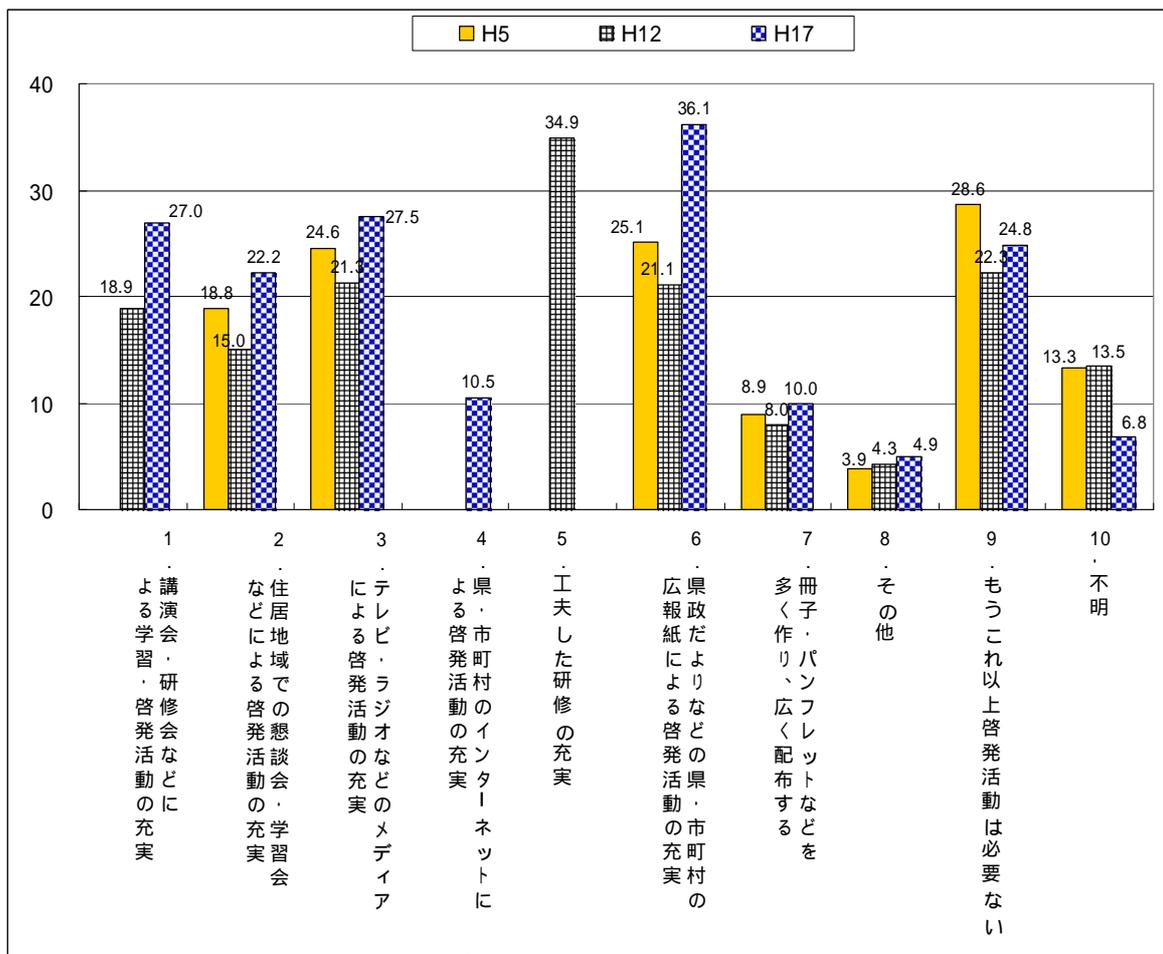
質問 12-1 同和問題についての理解を深めるために、県や市町村としては、今後どのような啓発活動を行えば効果的とお考えですか。あてはまるものすべてに をつけてください。

県や市町村が行う今後の啓発活動について聞いた(複数回答)。

なお、今回の調査では、前回の選択肢“テレビや映画による啓発活動の充実”を“テレビ・ラジオなどメディアによる啓発活動の充実”に変更し、“県・市町村のインターネットによる啓発活動の充実”を加えた。

また、前回調査から加わった選択肢“様々な人権問題と同和問題を考えるよう、学習内容や方法(参加型学習など)を工夫した研修の充実”は削除した。

図 91: 今後の啓発活動についての意見 (%)



“県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実”とする回答が 36.1%と最も高くなっている。2番目に高いのが“テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実”とする回答 27.5%である。次いで“講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実”27.0%となっている。一方、“もうこれ以上啓発活動は必要ない”とする回答も 24.8%ある。

図 92: 年齢階層別、今後の啓発活動についての意見 (%)

啓発活動	1位	2位	3位	4位	5位
1.20～24歳	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 34.5	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 28.6	県政だよりなど県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 27.4	もうこれ以上啓発活動は必要ない 23.8	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 15.5
2.25～29歳	〃 38.1	県政だよりなど県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 36.2	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 27.6	県・市町村のインターネットによる啓発活動の充実 20.0	〃 19.0
3.30～34歳	〃 40.6	〃 37.1	〃 25.9	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 23.1	県・市町村のインターネットによる啓発活動の充実 18.2
4.35～39歳	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 33.6	〃 31.5	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 25.9	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 25.9	もうこれ以上啓発活動は必要ない 20.3
5.40～44歳	〃 40.6	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 39.4	県政だよりなど県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 31.1	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 23.3	県・市町村のインターネットによる啓発活動の充実 15.6
6.45～49歳	県政だよりなど県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 37.4	〃 36.4	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 35.0	〃 27.7	もうこれ以上啓発活動は必要ない 17.0
7.50～54歳	〃 37.5	〃 34.7	〃 25.5	〃 27.6	〃 27.6
8.55～59歳	〃 42.4	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 27.6	もうこれ以上啓発活動は必要ない 27.6	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 24.6	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 23.9
9.60～64歳	〃 37.8	もうこれ以上啓発活動は必要ない 30.1	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 23.9	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 22.8	〃 22.0
10.65～69歳	〃 39.2	〃 33.7	〃 27.1	〃 17.7	〃 16.6
11.70～74歳	〃 39.9	〃 31.5	〃 23.0	〃 21.9	〃 19.7
12.75～79歳	もうこれ以上啓発活動は必要ない 34.6	県政だよりなど県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 34.0	〃 17.6	〃 15.7	〃 13.8
13.80以上歳	〃 31.1	〃 27.4	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 21.7	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 18.9	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 15.1

年齢階層別にみると、「20～34歳」は「テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実」、  
「35～44歳」は「講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実」、「45～74歳」は「県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実」、「75歳以上」は「もうこれ以上啓発活動は必要ない」の回答が最も高くなっている。

図 93: 職業別、今後の啓発活動についての意見 (%)

啓発活動	1位	2位	3位	4位	5位
1.民間企業・団体(事務)	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 34.5	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 29.9	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 29.9	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 23.9	もうこれ以上啓発活動は必要ない 22.8
2.民間企業・団体(事務以外)	〃 33.2	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 28.2	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 26.1	もうこれ以上啓発活動は必要ない 23.9	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 20.1
3.臨時・パート	〃 40.4	〃 36.9	〃 21.8	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 20.4	もうこれ以上啓発活動は必要ない 18.7
4.農林漁業	〃 34.3	もうこれ以上啓発活動は必要ない 29.8	〃 26.8	〃 26.8	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 19.7
5.商工業・サービス業	もうこれ以上啓発活動は必要ない 37.1	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 26.5	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 23.8	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 20.5	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 16.6
6.公務員・教員	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 56.7	〃 51.5	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 44.4	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 42.1	冊子・パンフレットなどを多く作り、広く配布する 21.6
7.専門職・自由業	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 36.5	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 31.7	〃 30.2	〃 28.6	もうこれ以上啓発活動は必要ない 14.3
8.学生	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 52.9	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 41.2	県・市町村のインターネットによる啓発活動の充実 23.5	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 23.5	〃 17.6
9.家事に従事	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 39.3	もうこれ以上啓発活動は必要ない 27.4	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 26.5	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 24.4	居住地域での懇談会・学習会などによる啓発活動の充実 20.1
10.その他	もうこれ以上啓発活動は必要ない 34	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 30	〃 28	〃 20	〃 16
11.無職	県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実 36.7	もうこれ以上啓発活動は必要ない 28.4	講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実 22.2	テレビ・ラジオなどのメディアによる啓発活動の充実 21.6	〃 19.1

職業別にみると、「商工業・サービス業」、「その他」で“もう、これ以上啓発活動は必要ない”とする回答が、「公務員・教員」、「学生」で“講演会・研修会などによる学習・啓発活動の充実”とする回答が、その他の職業では“県政だよりなどの県・市町村の広報紙による啓発活動の充実”とする回答が最も高くなっている。

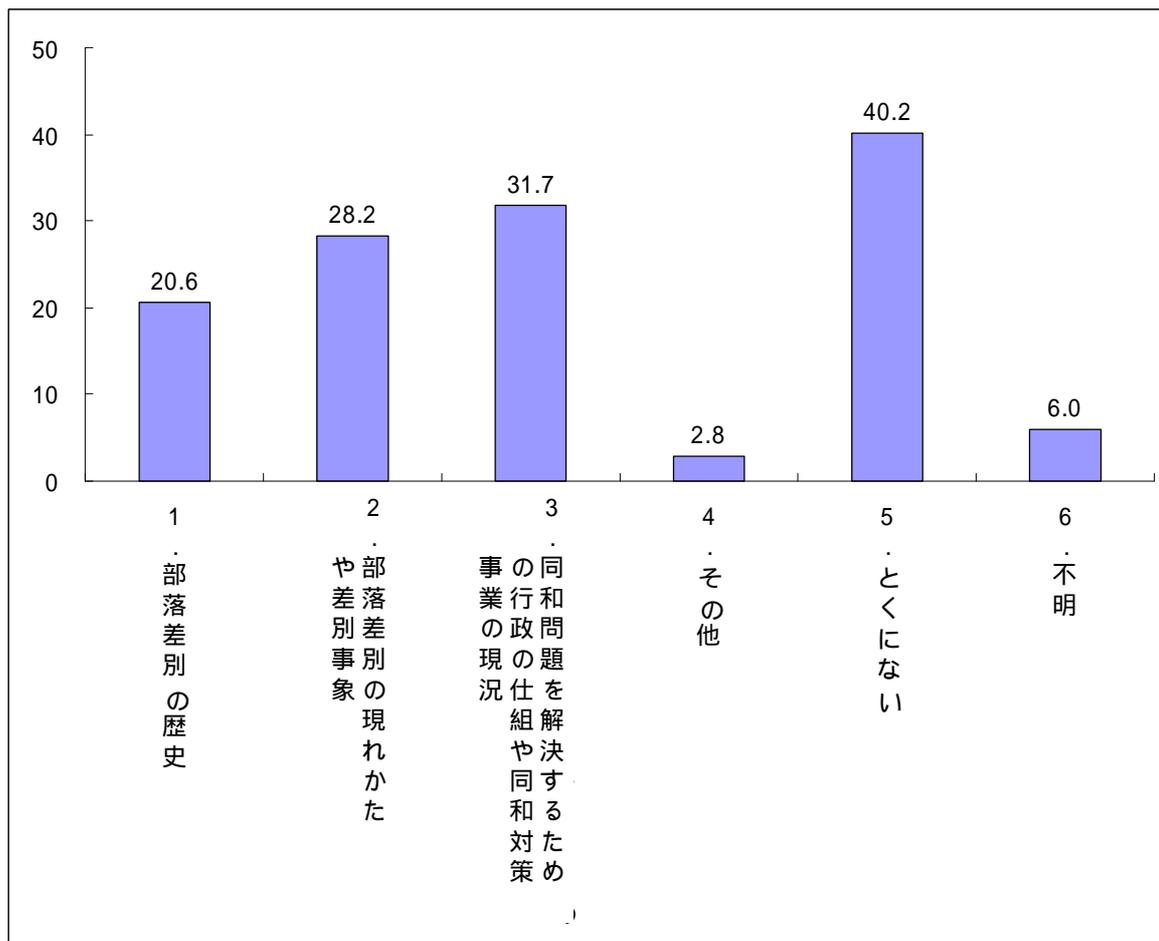
## イ 同和問題について知りたいことがら

質問 12-2 同和問題について、あなたが知りたいとか、勉強したいと考えておられるものすべてをつけてください。

同和問題の中で、具体的にどのような問題を学習してみたいか聞いた(複数回答)。

今回の調査では、同和問題に特化し、その他の人権問題については除いた設問としている。

図 94: 知りたいことがら (%)



“とくにない”とする回答が 40.2%と最も高く、次いで“同和問題を解決するための行政の仕組や同和対策事業の現況”31.7%、“部落差別の現れかたや差別事象”28.2%、“部落差別の歴史”20.6%の順となっている。

図 95: 年齢階層別、知りたいことがら (%)

知りたいこと 年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
1.20～24歳	とくにない 44.0	部落差別の現れか たや差別事象 40.5	同和問題を解決す るための行政の仕 組や同和対策事業 31.0	部落差別の歴史 14.3	その他 3.6
2.25～29歳	同和問題を解決す るための行政の仕 組や同和対策事業 41.0	とくにない 36.2	部落差別の現れか たや差別事象 29.5	” 18.1	不明 3.8
3.30～34歳	” 42.7	部落差別の現れか たや差別事象 39.2	とくにない 32.2	” 23.1	その他 0.7
4.35～39歳	” 39.9	” 37.1	” 30.1	” 23.1	” 3.5
5.40～44歳	” 41.1	” 35.0	” 27.8	” 16.1	” 6.1
6.45～49歳	” 37.9	” 37.4	” 35.0	” 28.2	” 2.9
7.50～54歳	とくにない 40.2	” 31.9	同和問題を解決す るための行政の仕 組や同和対策事業 29.9	” 19.9	” 3.6
8.55～59歳	” 41.8	同和問題を解決す るための行政の仕 組や同和対策事業 33.7	部落差別の現れか たや差別事象 27.3	” 21.5	不明 3.4
9.60～64歳	” 48.3	” 25.5	” 23.6	” 20.8	” 5.4
10.65～69歳	” 48.1	” 26.5	” 22.7	” 19.3	” 5.5
11.70～74歳	” 41.6	” 28.1	” 23.6	” 22.5	” 10.7
12.75～79歳	” 47.2	” 20.8	部落差別の歴史 18.9	不明 15.7	部落差別の現れか たや差別事象 10.7
13.80以上歳	” 51.9	不明 18.9	” 17.9	同和問題を解決す るための行政の仕 組や同和対策事業 15.1	” 14.2

年齢階層別にみると、「25～49歳」で“同和問題を解決するための行政の仕組みや同和対策事業の現況”とする回答が最も高くなっているが、その他の年齢階層では“とくにない”とする回答が最も高くなっている。

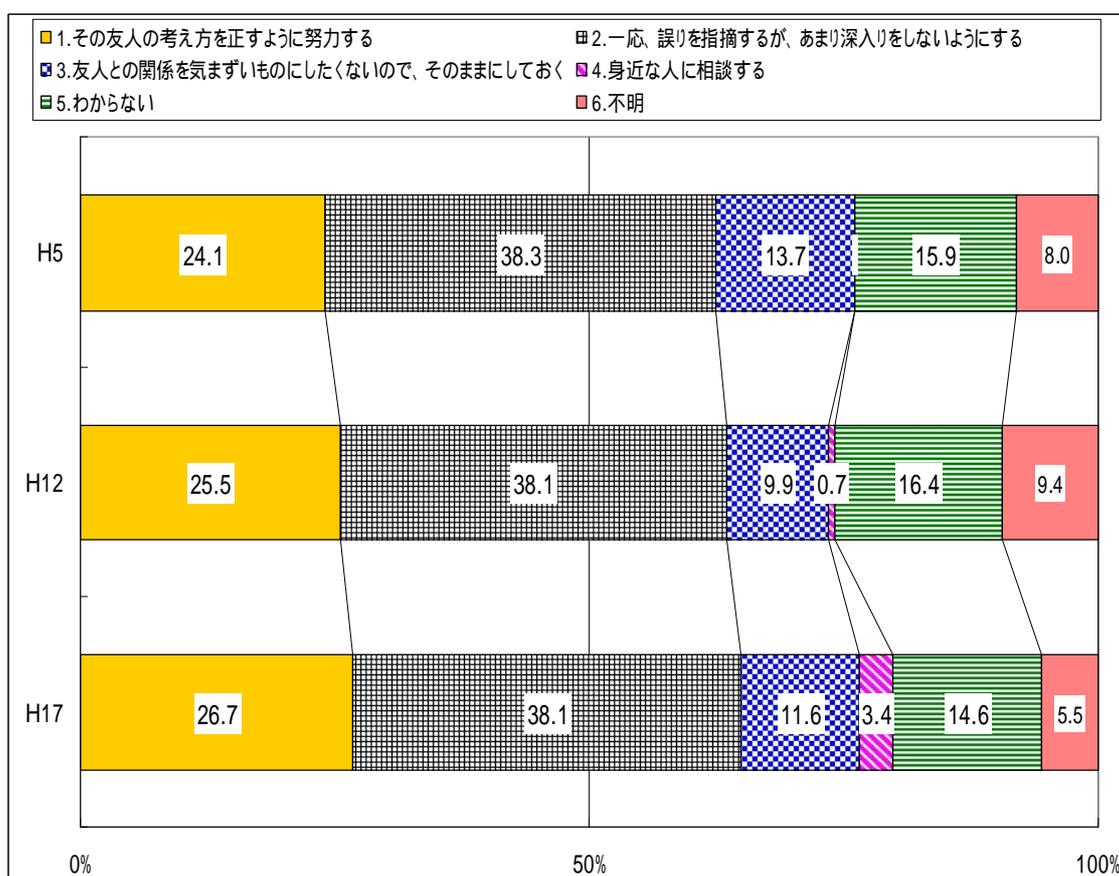
## ウ 差別発言についての対応

質問 13-1 友人と話し合っていたときに、その友人が同和問題に関し差別的な発言をした場合、あなたはどうしますか。あてはまるもの一つに をつけてください。

「友人が差別的な発言をした場合」という具体的な場面を想定し、差別への現実の対応としてどのような態度をとるか聞いた。

なお、前回調査で加わった選択肢“人権擁護委員などの相談機関に相談する”を、今回は“身近な人に相談する”に変更している。

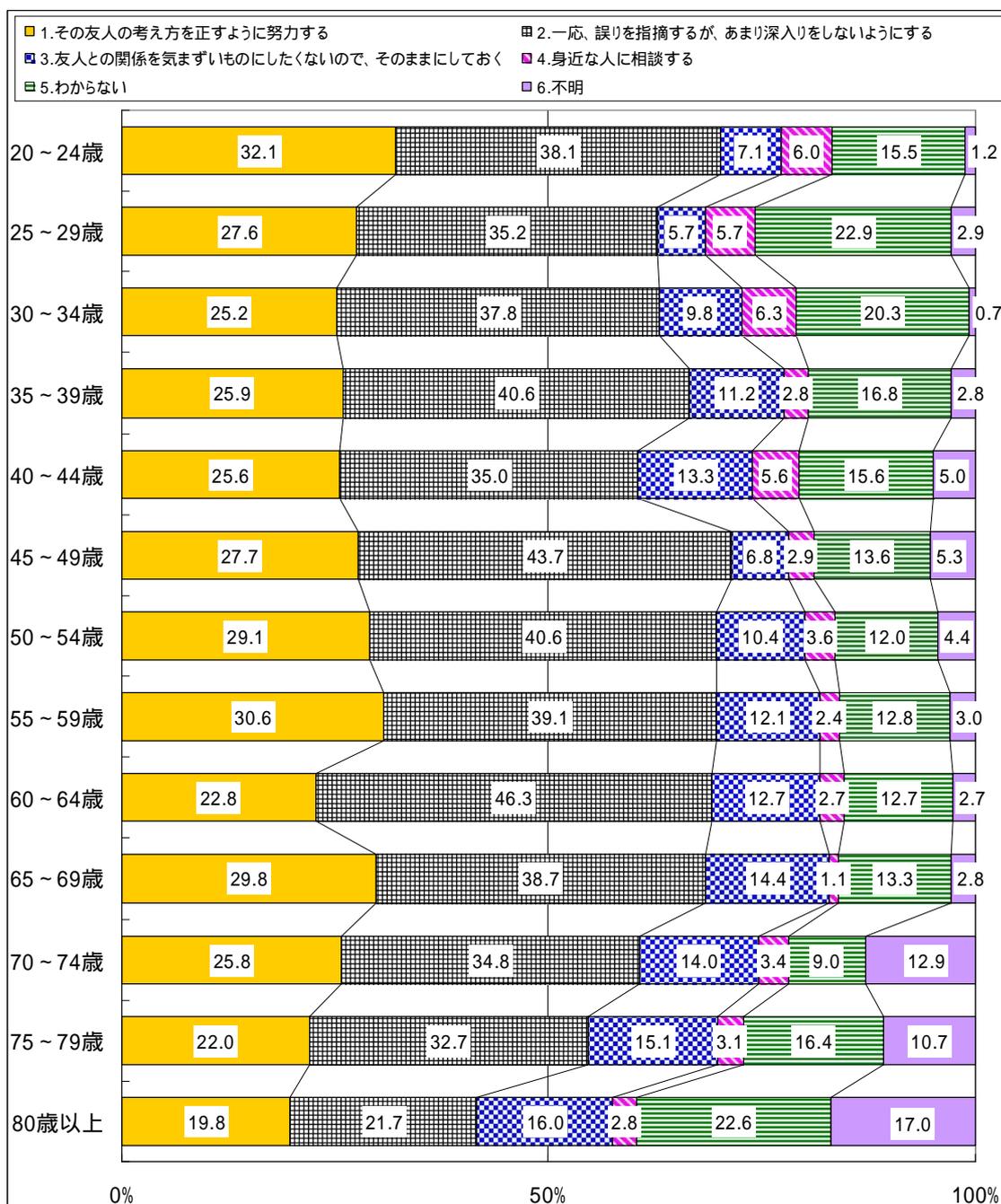
図 96: 差別発言についての対応 (%)



“一応、誤りを指摘するが、あまり深入りしないようにする”とする回答が 38.1%と最も高く、次いで“その友人の考え方を正すように努力する”26.7%となっている。

また、“友人との関係を気まずいものにしたくないので、そのままにしておく”とする回答は 11.6%となっている。

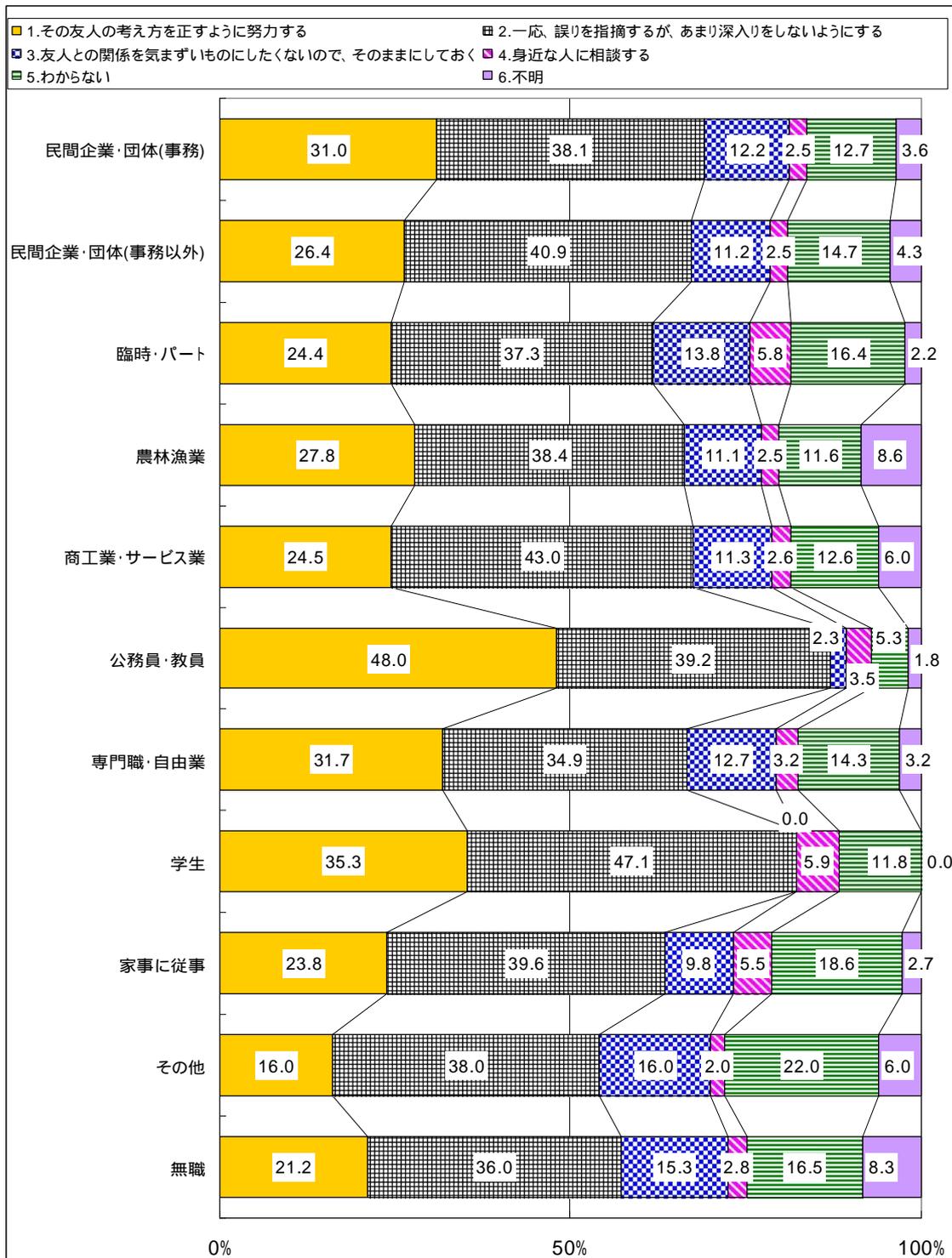
図 97: 年齢階層別、差別発言についての対応 (%)



年齢階層別にみると、「80歳以上」を除いて“一応誤りを指摘するが、あまり深入りをしないようにする”、“その友人の考え方を正すように努力する”の順で高くなっている。

また、“友人との関係を気まずいものにしたくないので、そのままにしておく”とする回答は、年齢階層が上がるほど、割合が高くなる傾向が見られる。

図 98: 職業別、差別発言についての対応 (%)

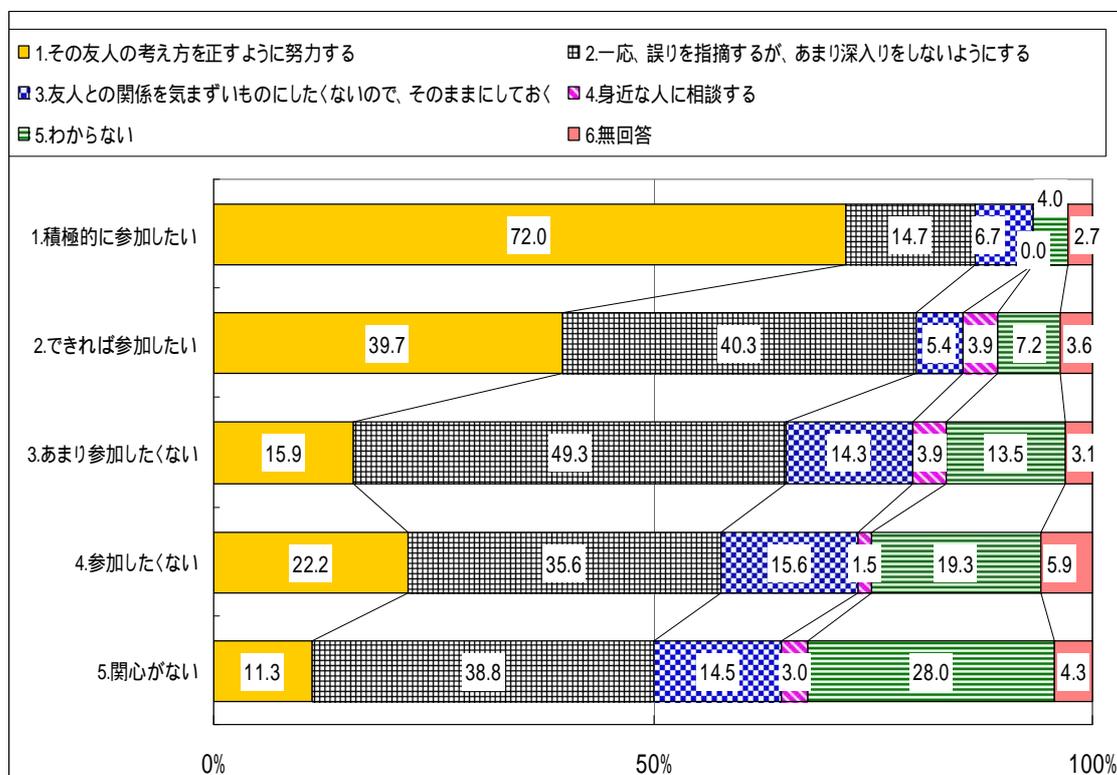


職業別にみると、「公務員・教員」が“その友人の考え方を正すよう努力する”とする回答が48.0%と最も高いが、その他の職業では“一応、誤りを指摘するがあまり深入りをしないようにする”とする回答が最も高くなっている。

図 99: 「部落差別解消への意欲」と「差別発言についての対応」との関連 (%)

【友人が同和問題に関し差別的な発言をした場合、あなたはどのようにしますか】

【部落差別をなくすための催し物などに参加したいか】



「部落差別解消への意欲」(質問 5-3)と「差別発言についての対応」(質問 13-1)との関係について、部落差別をなくすための催し物などに、“積極的に参加したい”と回答した者は、“その友人の考え方を正すように努力する”とする回答が 72.0%と高くなっている。

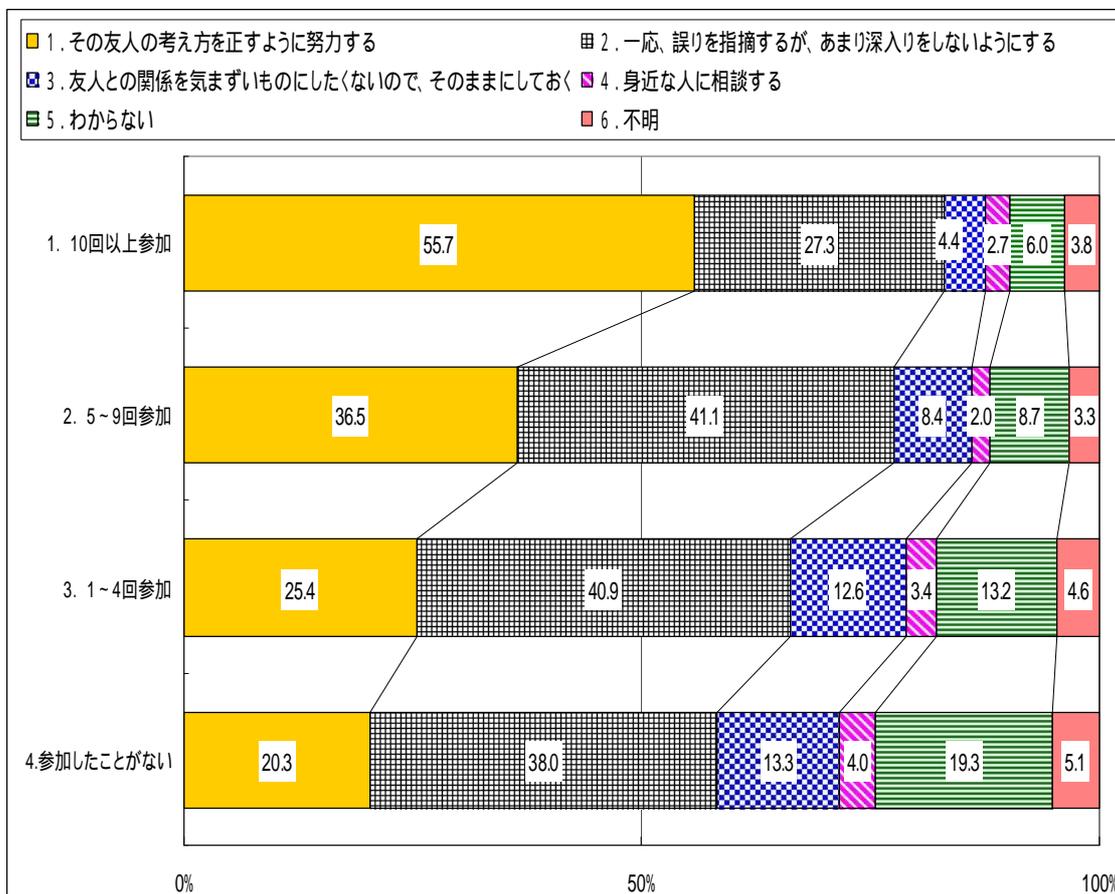
また、“できれば参加したい”と回答した者は、“その友人の考え方を正すように努力する”、“一応、誤りを指摘するがあまり深入りしないようにする”とする回答がほぼ同じ割合となっている。

一方、“あまり参加したくない”、“参加したくない”、“関心がない”と回答した者は、“一応、誤りを指摘するがあまり深入りしないようにする”とする回答が最も高くなっている。

図 100: 「講演会・研修会への参加状況」と「差別発言についての対応」との関連 (%)

【友人が同和問題に関し差別的な発言をした場合、あなたはどのようにしますか】

【講演会・研修会への参加状況】



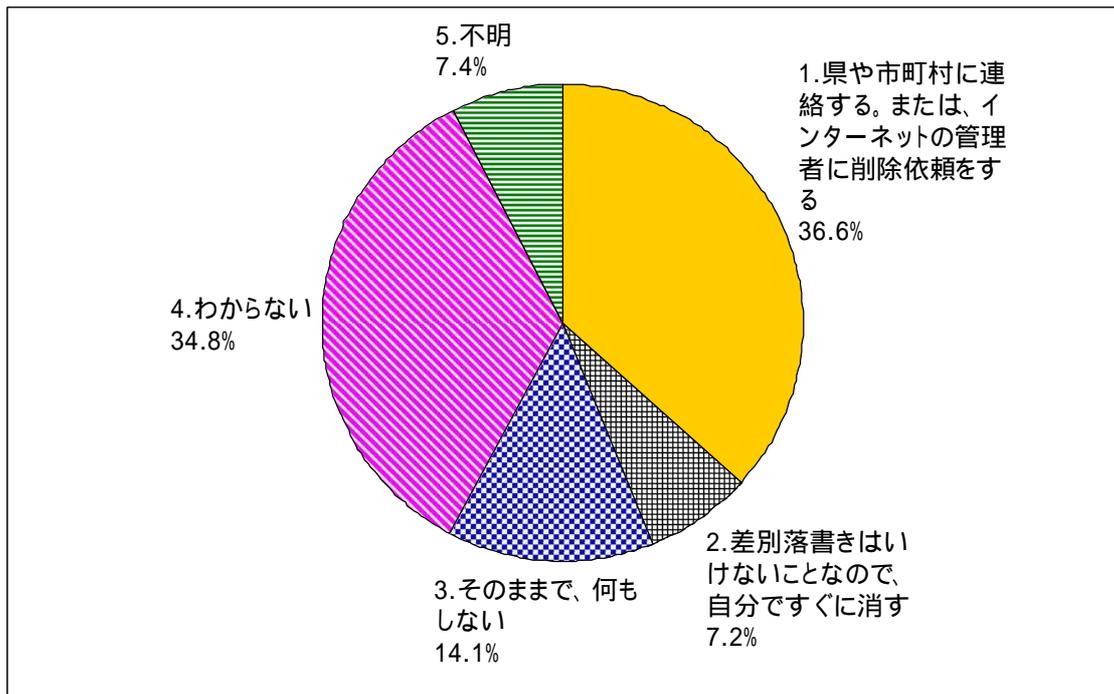
「講演会・研修会への参加状況」(質問7)と「差別発言についての対応」(質問 13-1)との関係を見ると、講演会等への参加回数の多い者ほど“その友人の考え方を正すように努力する”とする回答が増加しており、“参加したことがない”者の回答が20.3%であるのに対し、“10回以上参加”した者は55.7%で、およそ2.7倍となっている。

## エ 差別落書き・インターネットの差別書き込みについての対応

質問 13-2 差別落書きやインターネットへの差別書き込みを見つけた場合、どうしたらいいかご存知ですか。あてはまるもの一つに をつけてください。

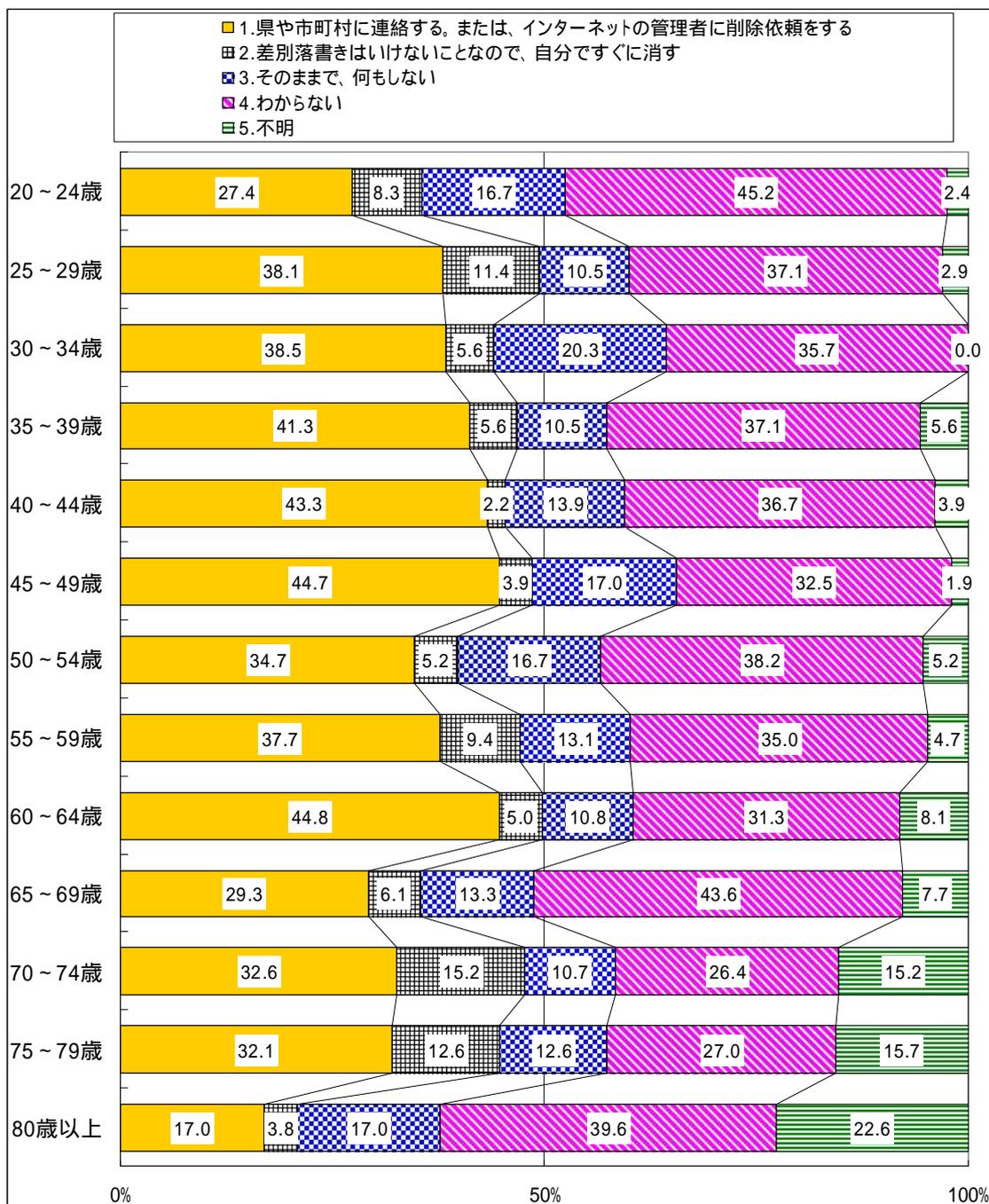
今回調査で新たに加えた設問である。

図 101: 差別落書き等についての対応 (%)



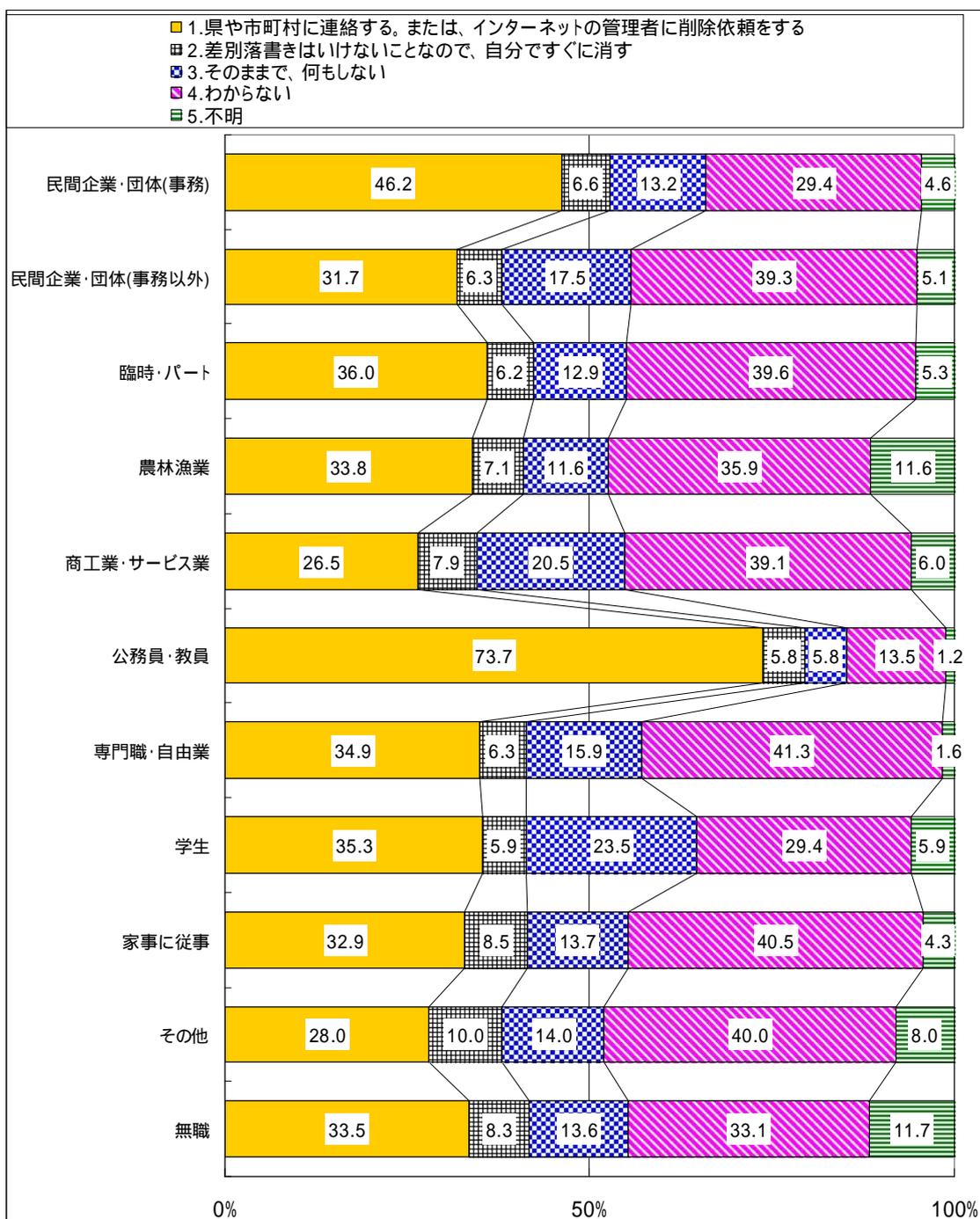
“県や市町村に連絡する。または、インターネットの管理者に削除依頼をする”が最も多く36.6%、次いで“わからない”が34.8%となっている。

図 102: 年齢階層別、差別落書き等についての対応 (%)



年齢階層別にみると、「20～24歳」、「50～54歳」、「65～69歳」、「80歳以上」で「わからない」とする回答が最も高く、その他の年齢階層では「県や市町村に連絡する。または、インターネットの管理者に削除依頼をする」とする回答が最も高くなっている。

図 103:職業別、差別落書き等についての対応(%)



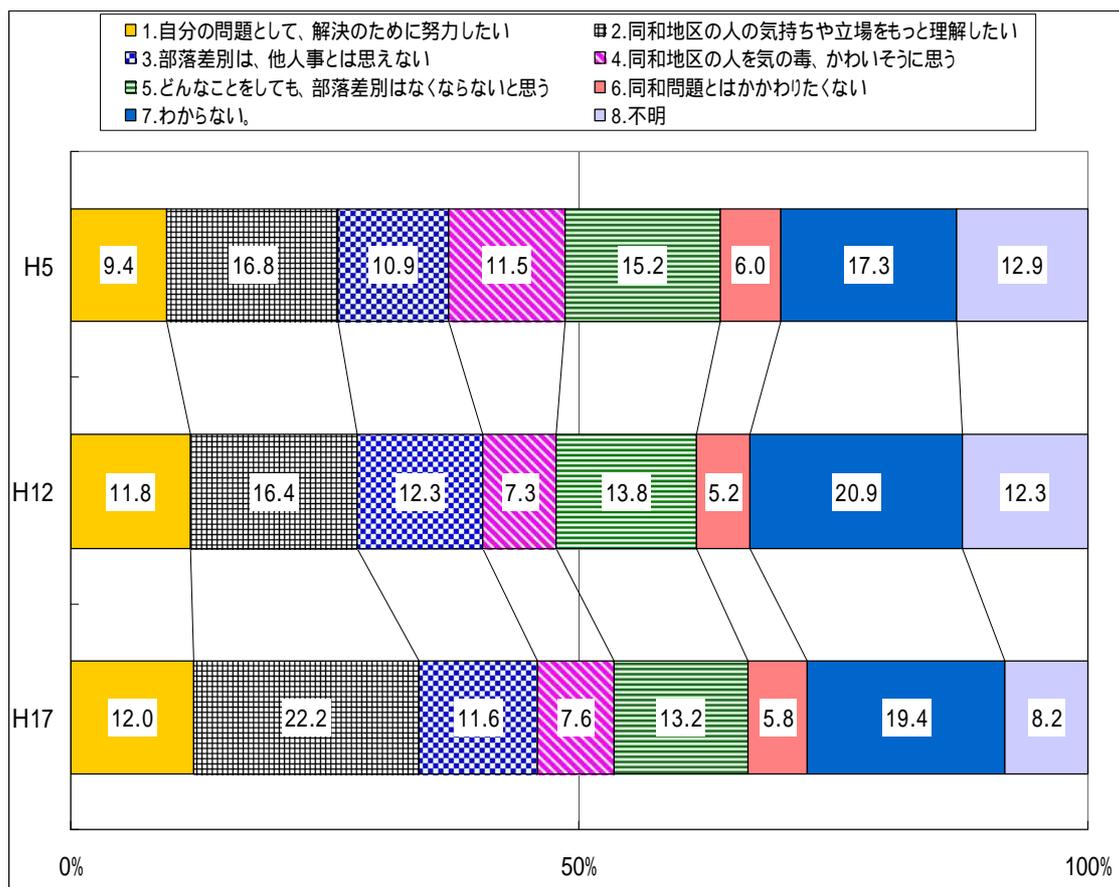
職業別にみると、「公務員・教員」で“県や市町村に連絡する。またはインターネットの管理者に削除要請する”とする回答が最も高くなっている。

## オ 同和地区や同和問題についての考え方

質問 14 あなたは、同和地区や同和問題について、現在どのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに合うもの一つをつけてください。

同和問題について基本的にとどのように考えているのか聞いた。

図 104: 同和地区や同和問題についての考え方 (%)



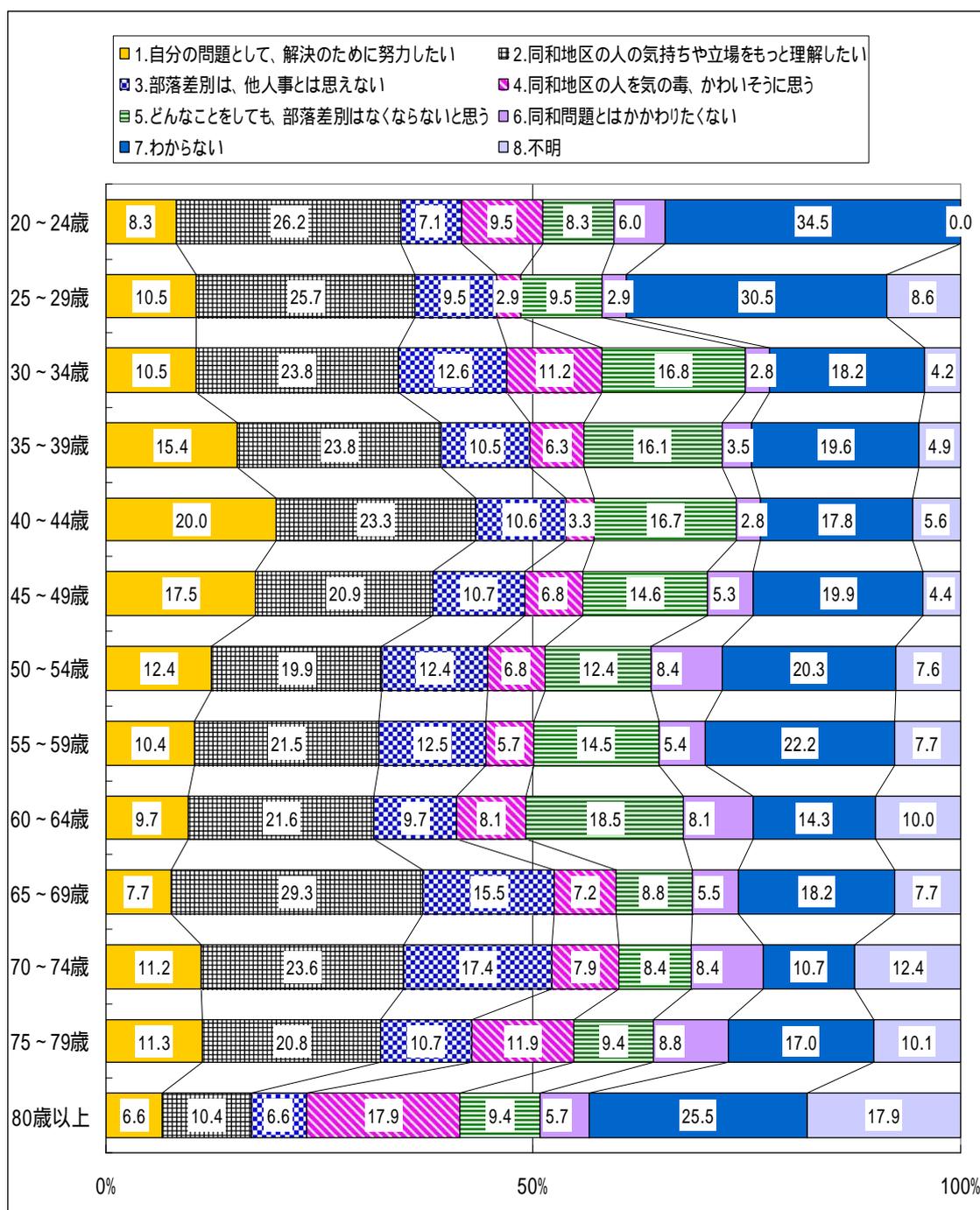
同和地区や同和問題について、“自分の問題として、解決のために努力したい”12.0%、“同和地区の人の気持ちや立場をもっと理解したい”22.2%、“部落差別は、他人事とは思えない”11.6%を合わせた「積極・共感的」回答は 45.8%となっている。

逆に、“どんなことをしても、部落差別はなくならないと思う”13.2%、“同和問題とは関わりたくない”5.8%を合わせた「否定・消極的」回答は 19.0%となっている。

また、“同和地区の人を気の毒、かわいそうに思う”とする「同情的」回答は 7.6%となっている。

前回調査と比較すると、「積極・共感的」回答が 35.5%から 45.8%へ 10.3 ポイント増加し、「否定・消極的」回答が 19.0%で変更なく、「同情的」回答が 0.3 ポイント、“わからない”が 1.5 ポイント減少している。

図 105: 年齢階層別、同和地区や同和問題についての考え方 (%)

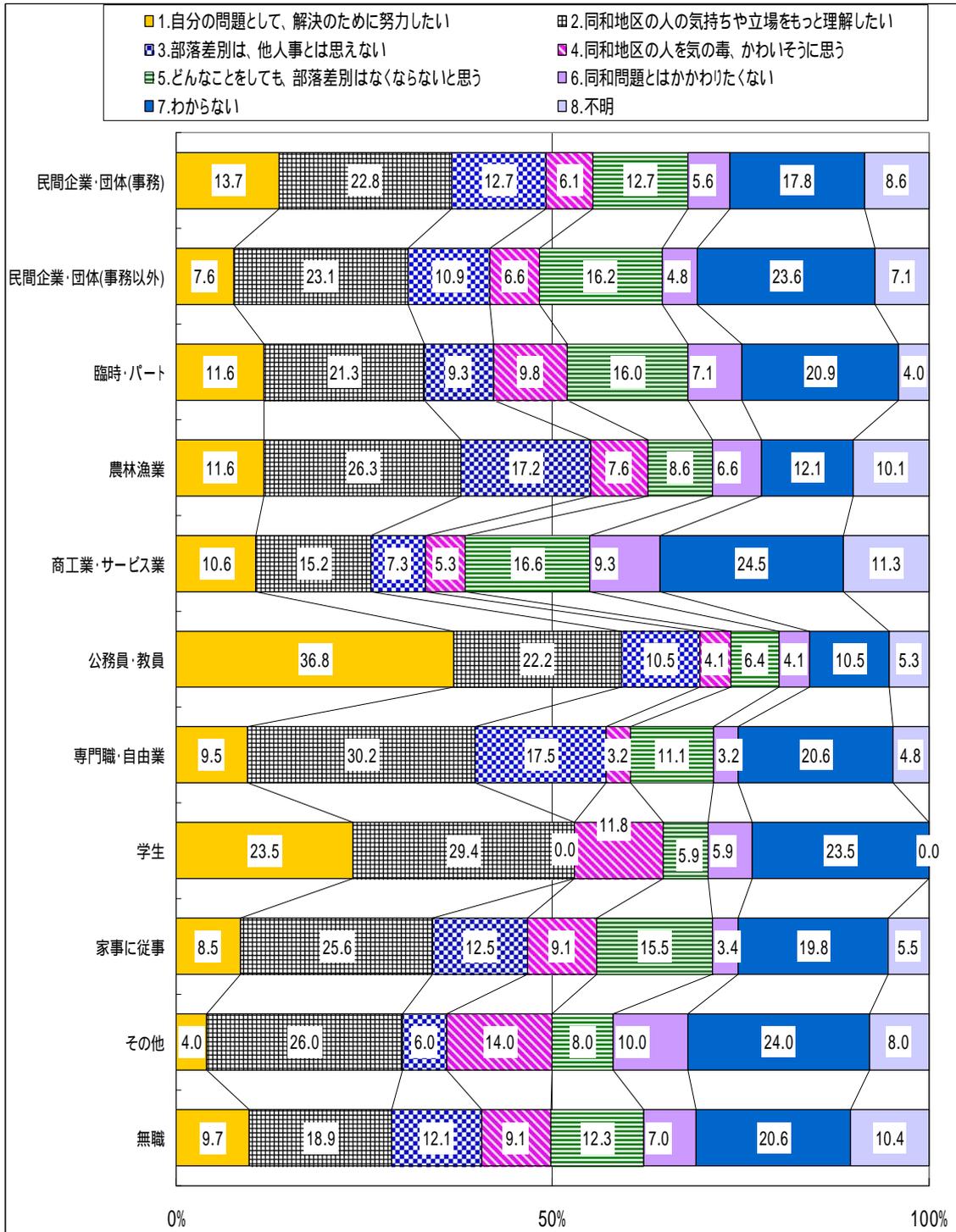


年齢階層別にみると、「80歳以上」を除いて「積極・共感的」回答が4割を超えており、特に「40～44歳」と「65～74歳」までの年齢層では5割を超えている。

「否定・消極的」回答は、「30～64歳」の年齢階層で比較的高くなっている。

また、「20～29歳」では「わからない」とする回答が3割を超え最も高くなっている。

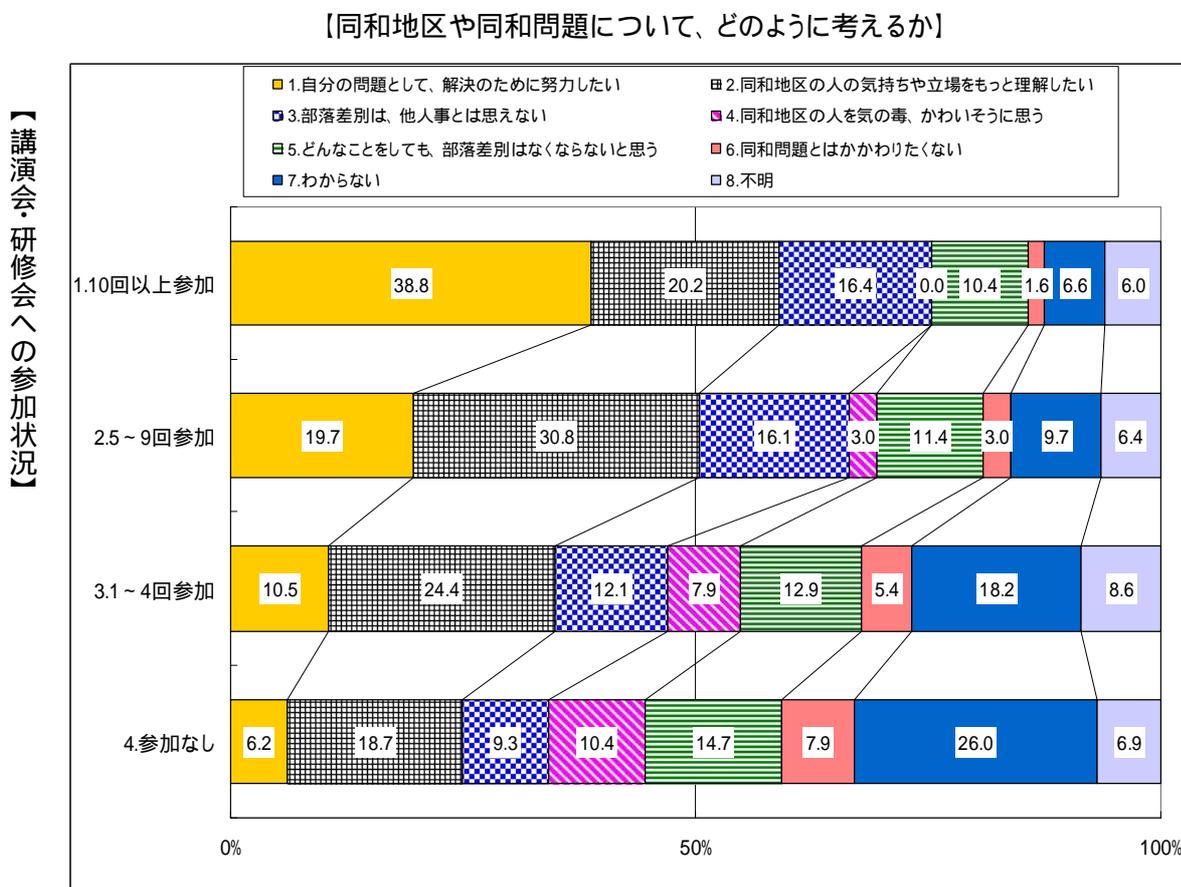
図 106: 職業別、同和地区や同和問題についての考え方 (%)



職業別にみると、全ての職業において「積極・共感的」回答が高くなっており、「公務員・教員」69.5%、「専門職・自由業」57.2%、「農林漁業」55.1%、「学生」52.9%で5割を超えている。

一方、「否定・消極的」回答は、「商工業・サービス業」25.9%、「臨時・パート」23.1%「民間企業・団体(事務以外)」21.0%で2割を超えている。

図 107: 「講演会・研修会への参加状況」と「同和地区や同和問題についての考え方」との関連 (%)



「講演会・研修会への参加状況」(質問7)と「同和地区や同和問題についての考え方」(質問14)との関係を見ると、講演会等への参加回数が多い人ほど「積極的・共感的」回答割合が高く、「10回以上参加」した者の75.4%は「参加なし」の者の34.2%のおよそ2.2倍となっている。

一方、「否定・消極的」回答は「10回以上参加」した者12.0%に対し、「参加なし」の者は22.6%となっている。

また、「わからない」とする回答は、参加回数が少ないほど高い割合となっている。

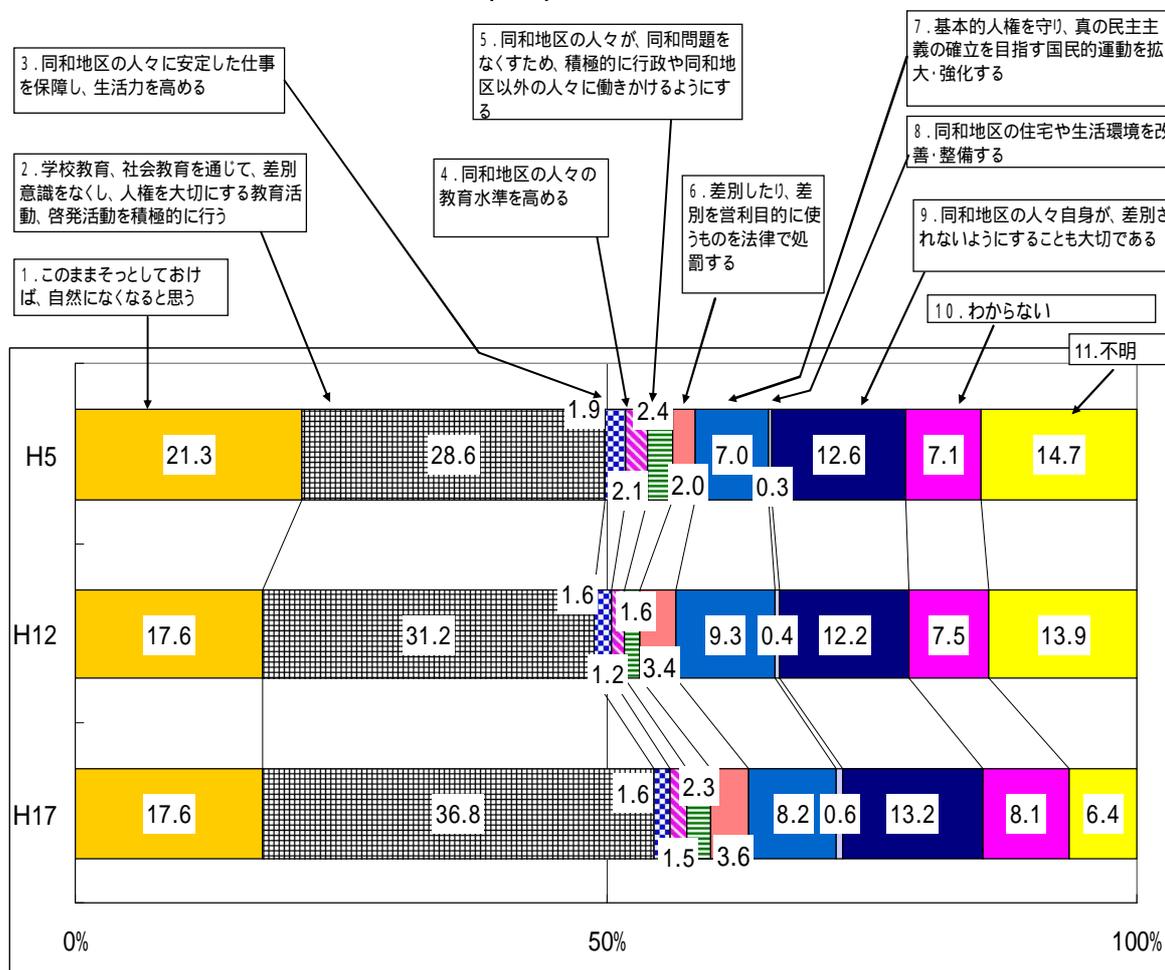
## カ 同和問題の解決についての意見

質問 15-1 同和問題の解決のためどのようなことを行ったらよいか、一番あなたの御意見に合うものを選んで をつけてください。

質問 15-2 質問 15-1 の項目の中で、二番目にあなたの御意見に合うものを選んで、その号を次の ( ) の中にご記入ください。

同和問題の解決のためにどのような方法がよいか、質問 15 で第1位を、質問 16 で第2位の意見を聞いた。

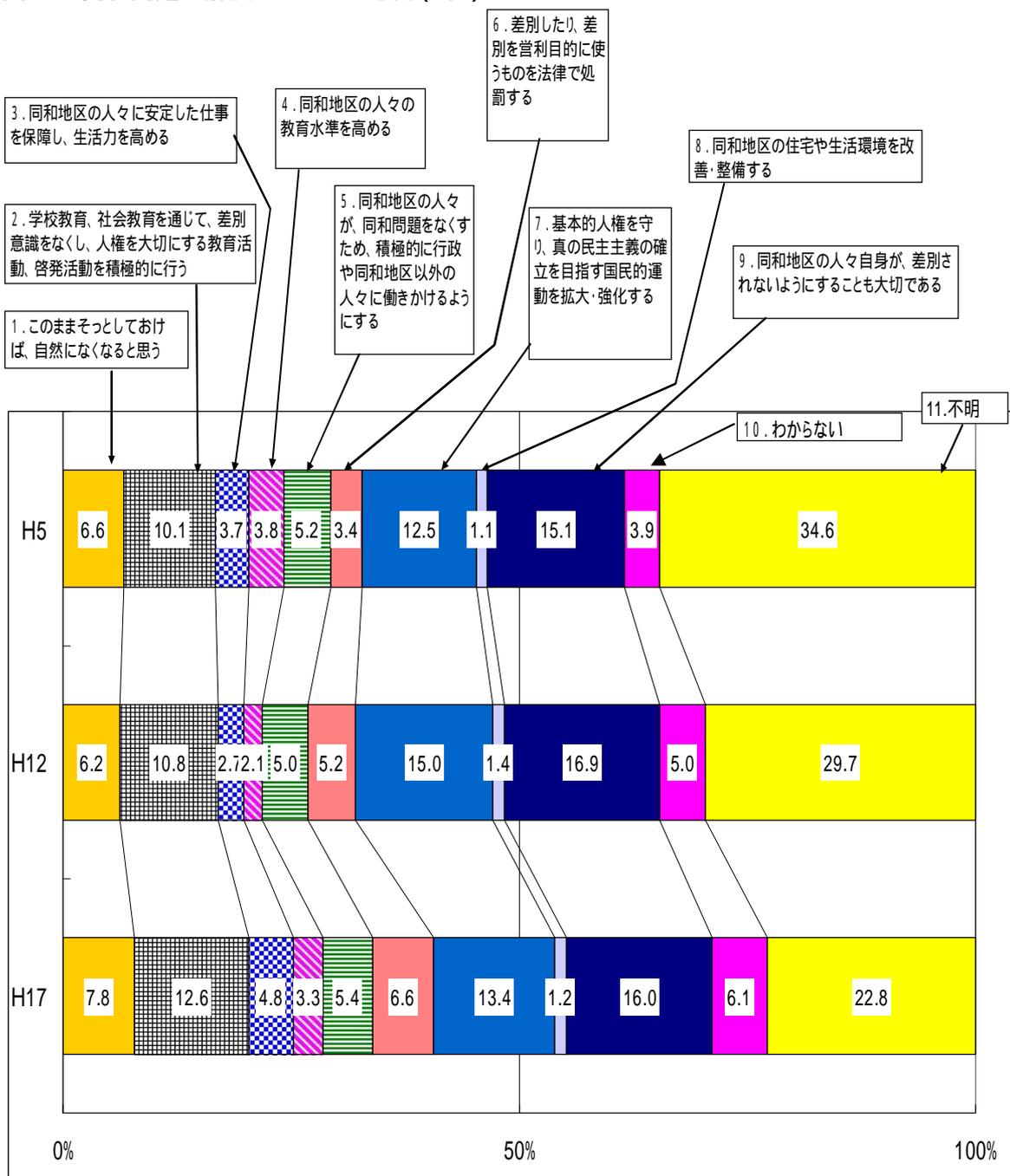
図 108: 同和問題の解決についての意見(1位)



第1位の意見をみると、“学校教育、社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にす教育活動、啓発活動を積極的に行う”との回答が36.8%と最も高く、次いで、“このままそっとおけば、自然になくなると思う”17.6%、“同和地区の人々自身が差別されないようにすることも大切である”13.2%の順となっている。

前回調査と比較すると、“教育活動、啓発活動を積極的に行う”は5.6ポイントの増加となっている。

図 109: 同和問題の解決についての意見 (2位)



第2位の意見を見ると、“同和地区の人々自身が差別されないようにすることも大切である”とする回答が16.0%と最も高く、次いで、“基本的人権を守り、真の民主主義の確立を目指す国民的運動を拡大・強化する”13.4%、“教育活動、啓発活動を積極的に行う”12.6%の順となっている。

年齢階層別に第1位の意見をみると、「69歳以下」の年齢階層で“教育活動、啓発活動”とする回答が最も高くなっており、「40～44歳」では57.2%と、他に比べ高くなっている。しかし、「45歳以上」では、年齢階層が上がるにつれ、“教育活動、啓発活動”の割合が減少し、“自然になくなる”、“同和地区の人々が差別されないようにすることも大切である”が増加する傾向がみられる。

次に、第2位の意見をみると、“同和地区の人々自身が差別されないようにすることも大切である”とする回答の割合が高かったのは「20～24歳」、「35～39歳」、「45～49歳」、「55歳以上」で、“国民的運動を拡大・強化”とする回答の割合が高かったのは「40～54歳」となっている。

職業別に第1位の意見をみると、どの職業においても“教育活動、啓発活動”とする回答が最も高くなっており、「学生」58.8%、「公務員・教員」58.5%、「専門職・自由業」49.2%の順となっている。“自然になくなる”とする回答は、「無職」23.5%、「農林漁業」21.2%、「商工業・サービス業」21.2%、「その他」20.0%の順となっている。“同和地区の人々が差別されないようにすることも大切である”とする回答が高いのは、「その他」20.0%、「商工業・サービス業」17.2%、「農林漁業」16.7%、「無職」16.5%の順になっている。

次に、第2位の意見をみると、“国民的運動を拡大・強化”とする回答が高いのは「公務員・教員」26.9%となっている。“同和地区の人自身が差別されないようにする”の回答が高いのは「家事に従事」19.8%、「無職」18.0%、「商工業・サービス業」17.9%、「農林漁業」17.7%となっている。

図 110: 年齢階層別、同和問題の解決についての意見(1位)

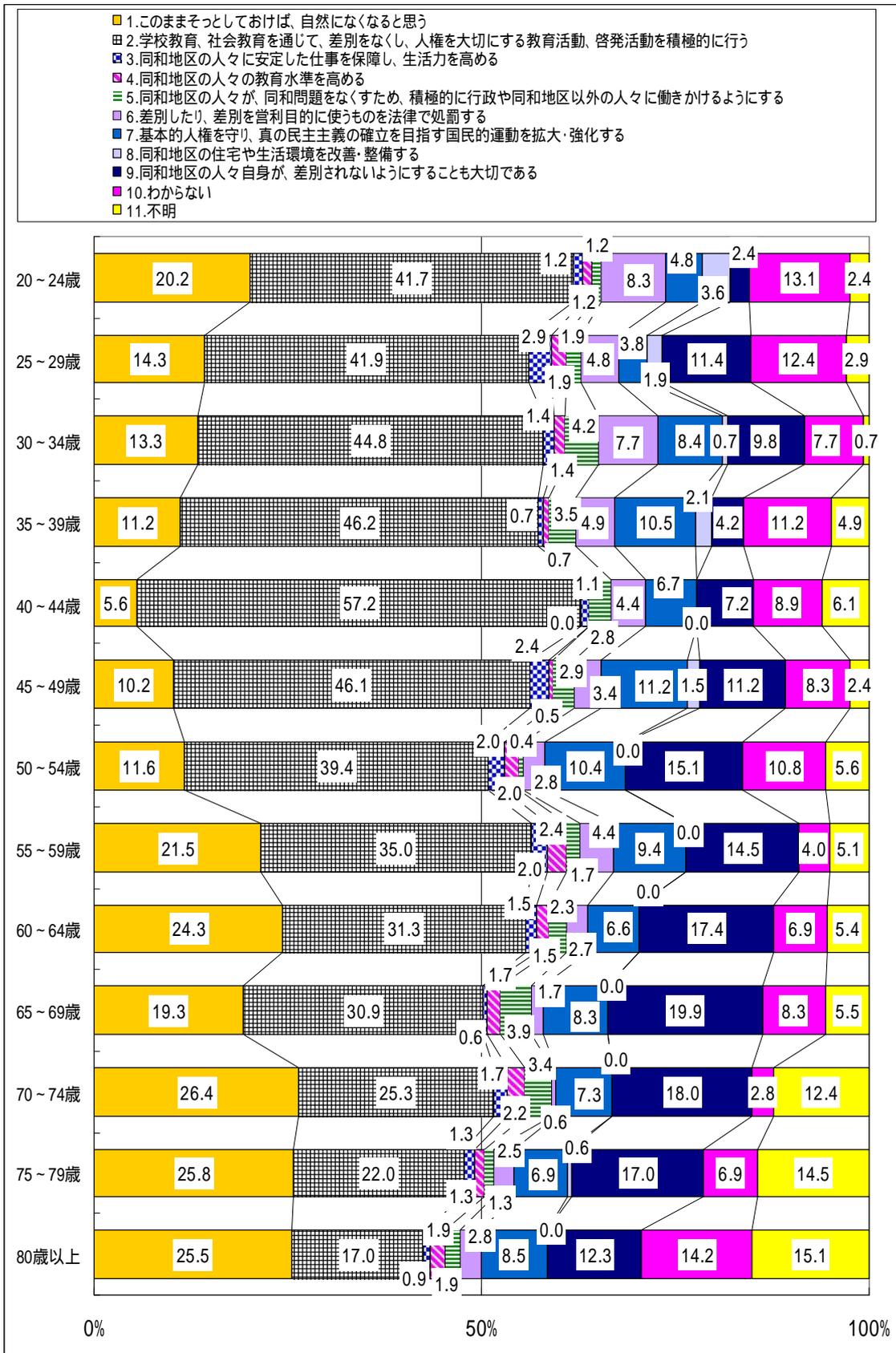


図 111: 年齢階層別、同和問題の解決についての意見 (2位)

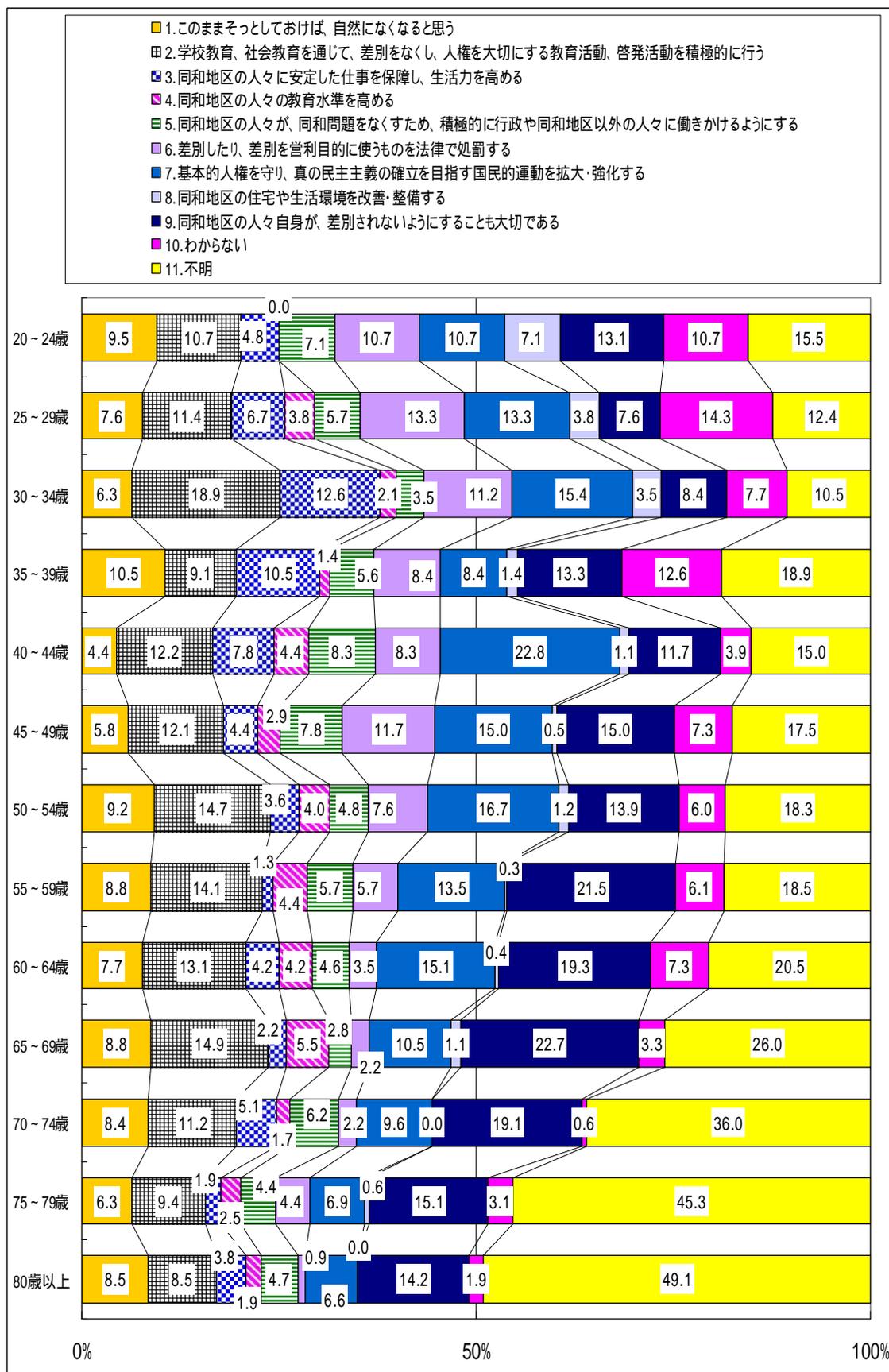


図 112: 職業別、同和問題の解決についての意見(1位)

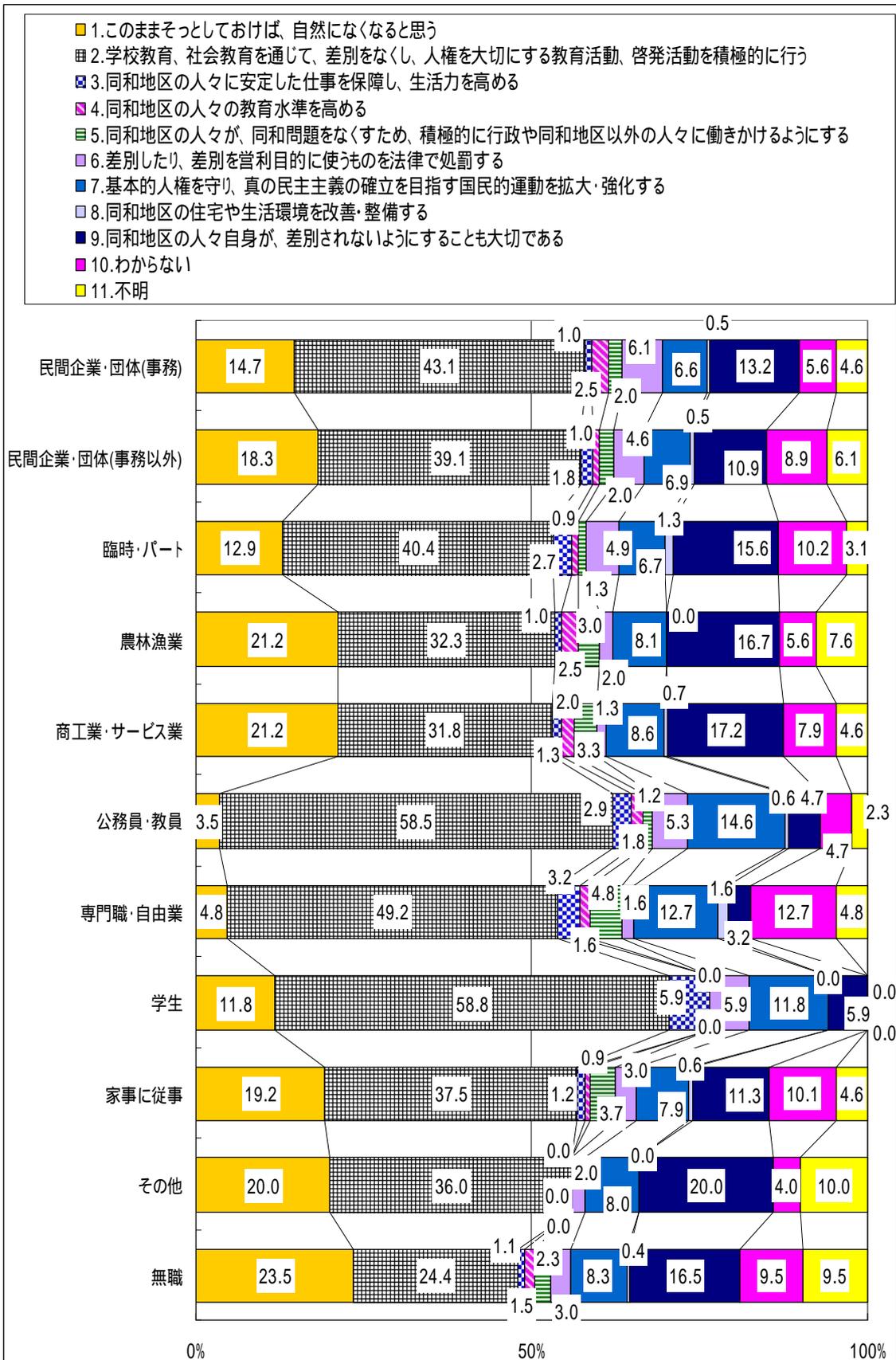


図 113: 職業別、同和問題の解決についての意見(2位)

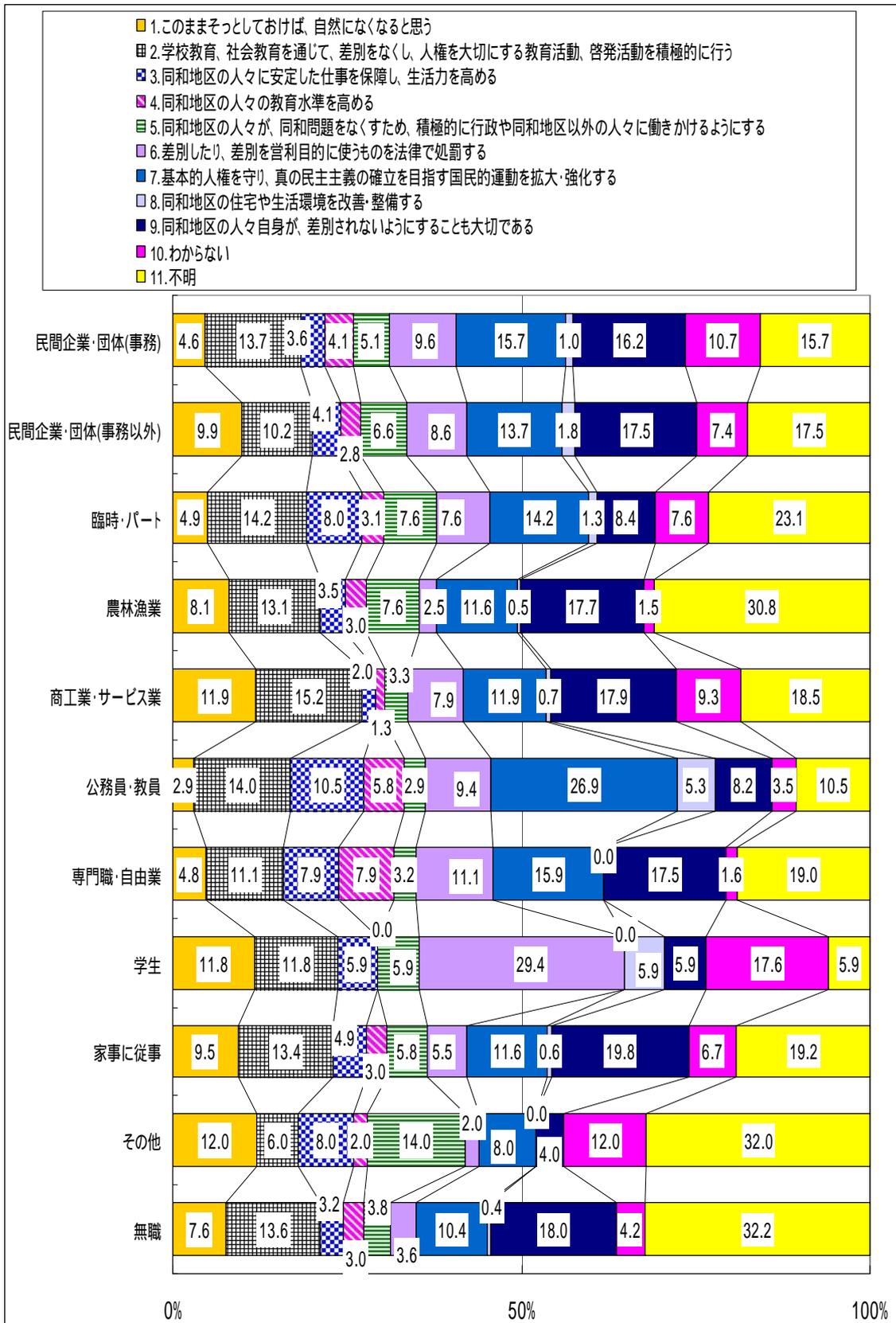
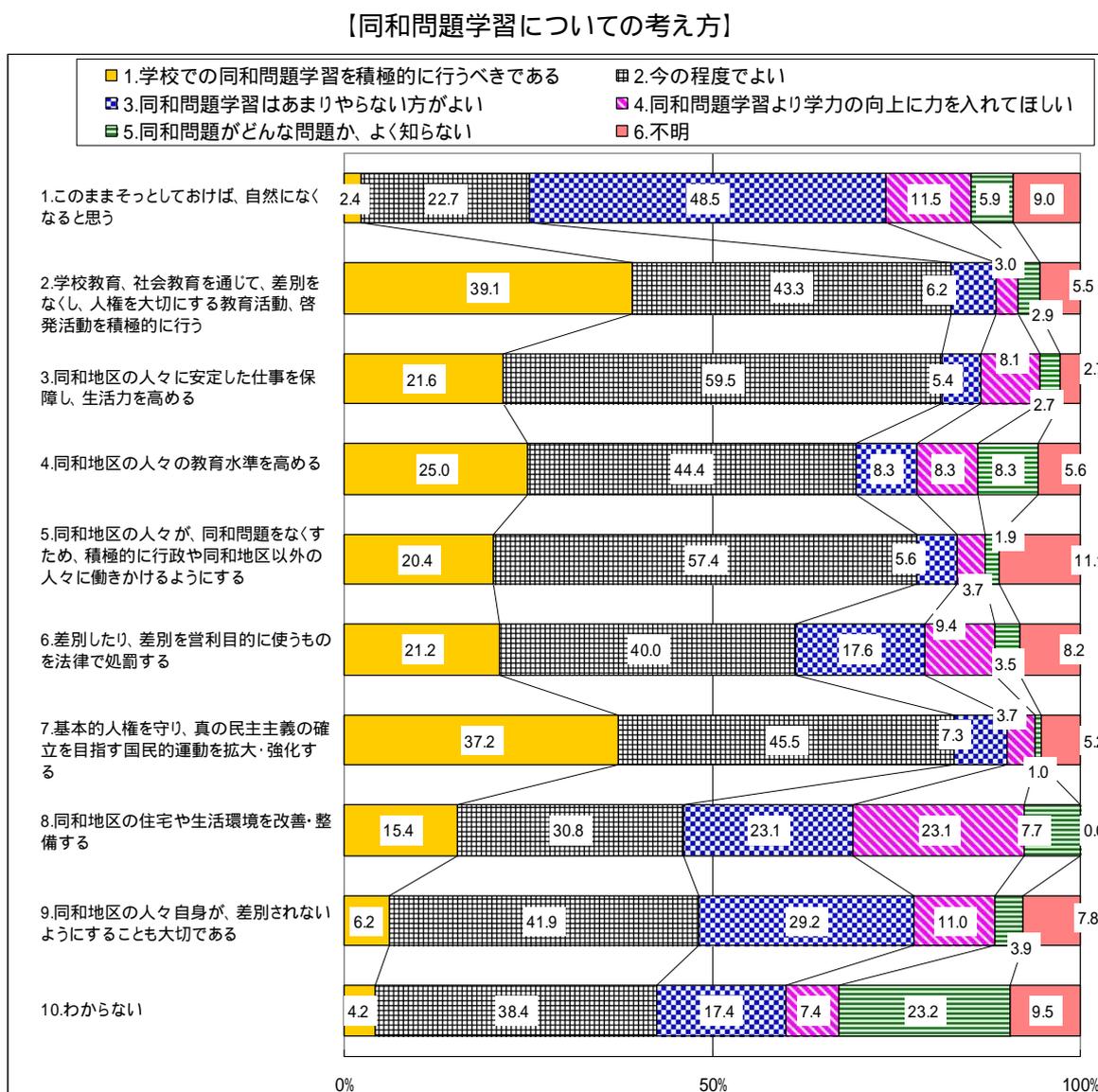


図 114: 「同和問題の解決についての意見(第1位)」と「同和問題学習についての意見」との関連

【同和問題の解決についての意見(第1位)】



「同和問題の解決についての意見」(質問 15-1)と「同和問題学習についての考え方」(質問 11)との関係を見ると、“そっとしておけば自然になくなる”とする回答をした者では“同和問題学習をあまりやらない方がよい”とする回答が最も高くなっている。

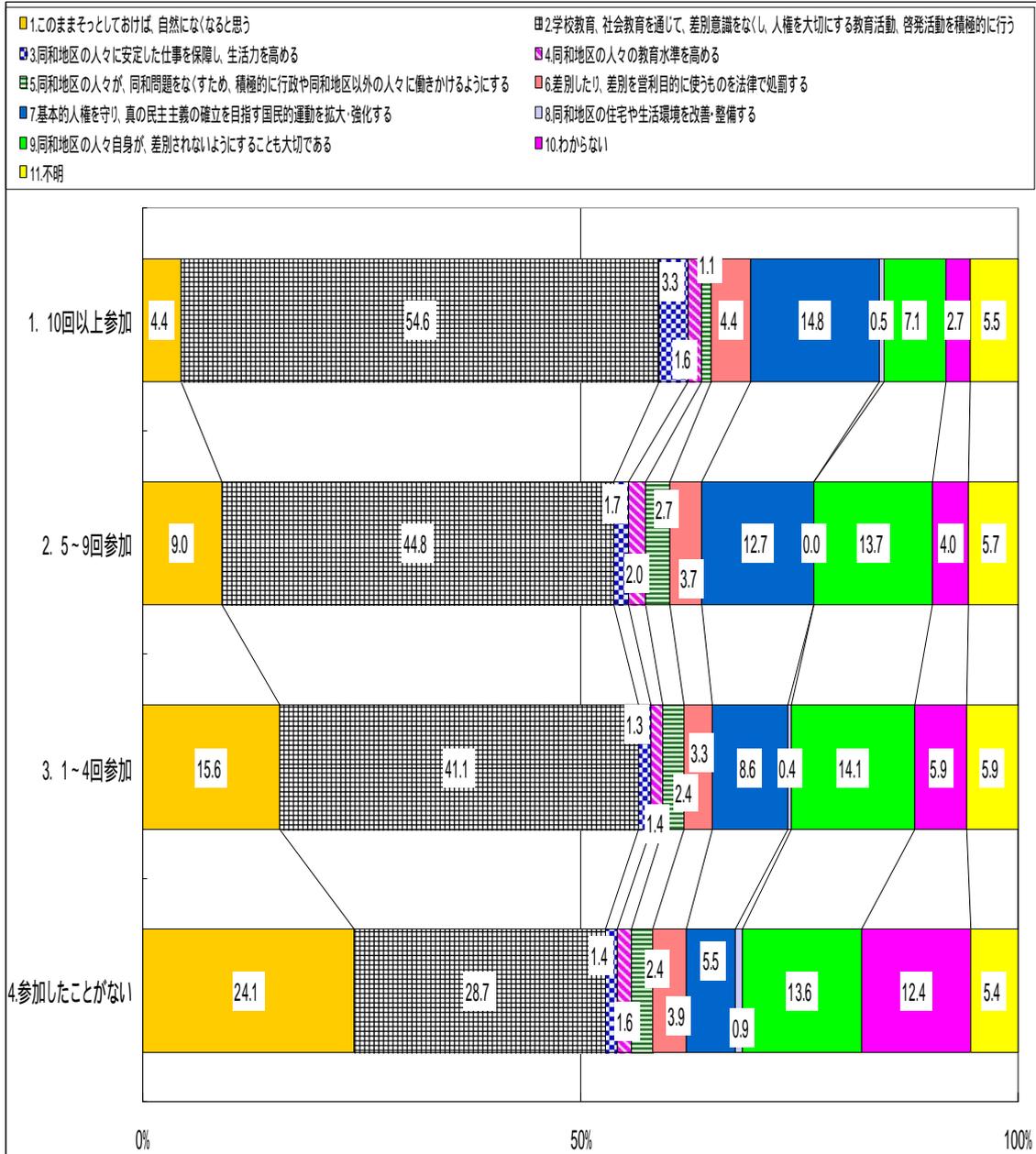
その他の意見を回答した者では“今の程度でよい”と回答する割合が最も高くなっている。

また、“教育活動・啓発活動を積極的に行う”、“国民的運動を拡大・強化する”と回答した者では、“同和問題学習を積極的に行うべきである”とする回答も4割弱と高くなっている。

図 115: 「講演会・研修会への参加状況」と「同和問題の解決についての意見(第1位)」との関連 (%)

【同和問題解決についての意見(第1位)】

【講演会・研修会への参加状況】



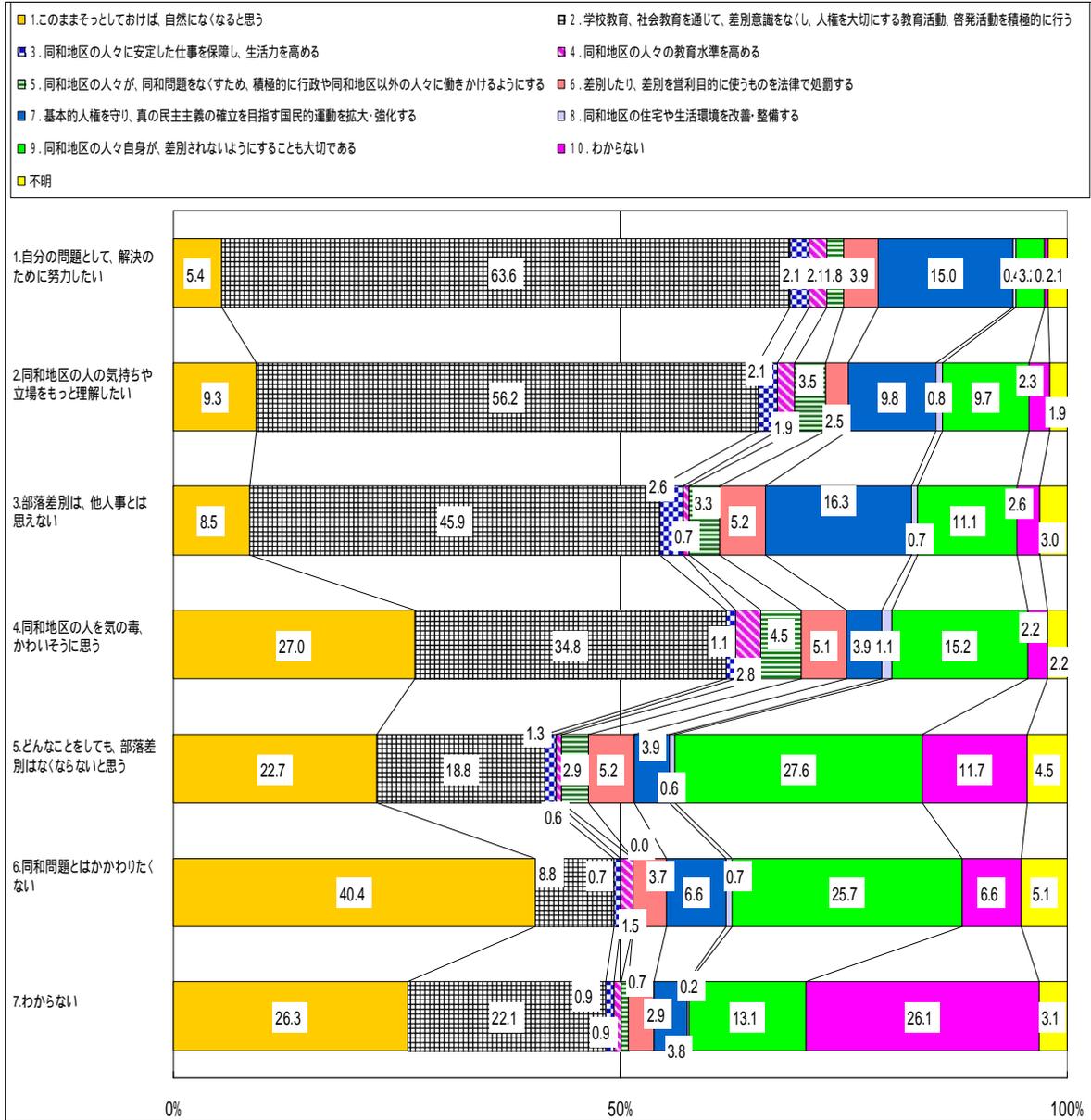
「講演会・研修会への参加状況」(質問7)と「同和問題の解決についての意見(第1位)」(質問15-1)との関係を見ると、研修会等への参加回数が多い者ほど“教育活動・啓発活動を積極的に行う”とする回答が高くなっている。

逆に、参加回数が少ない者ほど“このままそっとおけば、自然になくなる”と回答する割合が高くなっている。

図 116: 「同和地区や同和問題についての考え方」と「同和問題の解決についての意見」との関連 (%)

【同和問題解決のために、どのようなことをおこなったらよいか】

【同和地区や同和問題についての考え方】



「同和地区や同和問題についての考え方」(質問 14)と「同和問題解決についての意見(第1位)」(質問 15-1)との関係について、“自分の問題として、解決のために努力したい”、“同和地区の人の気持ちや立場をもっと理解したい”、“部落差別は、他人事とは思えない”との「積極・共感的」回答をした者は“学校教育、社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う”とする回答が最も高くなっている。特に“自分の問題として、解決のために努力したい”と回答した者は 63.6%、“同和地区の人の気持ちや立場をもっと理解したい”と回答した者は 56.2%と高くなっている。

また、“同和地区の人を気の毒、かわいそうに思う”と回答した者は、“学校教育、社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う”とする回答が 34.8%となっている一方、“このままそっとしておけば、自然になくなると思う”とする回答も 27.0%となっている。

一方、“どんなことをしても、部落差別はなくならないと思う”と回答した者は“同和地区の人々が差別されないようにすることが大切である”が 27.6%、“同和問題とはかかわりたくない”と回答した者は“このままそっとしておけば、自然になくなる”が 40.4%と最も高くなっている。

## キ 同和問題の解決、差別意識の解消に向けての自由意見

同和問題の解決や差別意識の解消に向けてどのようにしたらよいか、何か御意見・御要望がありましたら、自由にお書きください。

調査票の最後に自由に意見を記入する欄を設けた。

記入のあった意見は、同和問題に関する教育、啓発活動について(約5割)が最も多く、次に多いのが、同和問題に関する意見や感想(約3割)であった。こうした意見を分類し、その主なものを要約して次に掲げた。

### (ア)同和問題に関する教育・啓発活動について

#### a 同和問題解決のための教育・啓発活動に積極的な意見

- ・学校・地域で同和問題を教育することも必要だが、もっと家庭で教育すべきであると思う。
- ・同和問題は年代によってさまざまな考え方や固定観念があり、それを深く信じて暮らしてきた人から差別意識を取り除くのは難しいと思う。子どもたちに正しい知識をしっかりと伝える姿勢が必要ではないか。
- ・高齢者の中には自分たちが死ねば差別は自然となくなるという人が多い。逃げの考え方だと思う。差別が誤りであると判断できるなら、その時に考えを変えて今までの差別した時のことを思い出して反省し、次の世代に事実を話して、これを教材にしてプラスに活かしていくようになってゆけばよいと思う。解決策は地道な教育活動(保育・幼稚園・学校教育・社会教育等)だと思う。

#### b 同和問題解決のための教育・啓発活動に消極的な意見

- ・現在の子どもは、大人が取り上げない限り、同和問題で差別することを知らないと思う。同和教育について取り上げ、特別な行事をすることによって、余計関心を持つようになる。同和教育を取り上げている限り、同和という差別用語はなくなる。特別なことをする必要はないと思う。
- ・現在、自分の周りにそういう問題はあまりない。今の子どもは、同和問題自体を知らず、講演会などで初めて知る子どもが多いかもしれない。ほっておけば自然になくなると思う。
- ・寝た子を起こすようなことはしないほうがいい。代が変わることにより自然に解消する。
- ・問題意識を持ち、積極的に活動することが差別を広めて行くように思えてならない。知らない子どもたちにまで部落問題を話す必要はない。

#### c 同和問題に特化しないで、人権問題全般を扱うべきとする意見

- ・同和問題に特化せず、人権を重視した教育・啓発活動を行うべき。人権尊重という観点から同和・人権・福祉など共通の問題がクリアできると思う。
- ・同和問題は大切な問題だが、それ以前に人権という問題をじっくり勉強しなければ解決しない気がする。人権を勉強していく中で、差別やいじめなどは許されないことを学習していくべ

き。

d 同和問題解決のための教育・啓発活動の内容を改善・工夫するべきとする意見

- ・子どもが学校で学習したことを家庭に持ち帰っても、大人が壊してしまうことがあると思う。大人が差別意識を考えていけるような学習機会が必要ではないか。
- ・テレビや新聞、ラジオ等で、もっとたくさん啓発活動できるようにしたいと思う。職場で研修があるところでは学習機会が多いが、そうでない職場も多くある。映像や音声だと、文字が読めなくてもそれに触れると、ずっと入ると思う。部落解放月間以外でも日々啓発し、身近なことと感じられることが大事だと思う。
- ・講演会、研修会、学習会、懇談会等も大切だが、限られた人、興味のある一部の人が集まらない。もっと身近に、誰もが見られ理解できるものとして、テレビ等をもっと利用してほしい。家にも、子どもと一緒に勉強できるものの一つだと思う。毎日目を通す新聞の記事や、月1回必ず目を通す県政だより等にもどんどん取り上げてもらいたい。

(イ) 同和問題に関する意見や感想について

- ・差別とは個人の心の問題であって、人を傷つけることも差別、人の傷つく言葉を言うことも差別、人の嫌なことをするのも差別であると思っている。差別がなくなる時は、たくさんの人たちが、周りや相手の人に思いやりと優しさを持てる時だと思う。
- ・他人のことならきれい事が言えるが、自分のこととなると今の考えを改めることは難しい。同和地区の生活も教育、仕事も何ら変わらないし、同和問題と騒ぎすぎるのではないか。
- ・子どもの教育も大事だが、子どもは大人の何気ない差別の言葉や行動を知らないうちに見ていて真似をしている。大人一人ひとりがそれに気づいて直していかないと、何年経っても同じことの繰り返しだと思う。